

# 科技高 いきもの記

Vol.15 2020.11.18

佐藤龍平

校内に住みついているかも？！

## タヌキ



↑科技高の正門にいた野生のタヌキ。体長は40～50cmほど。



↑横十間川の塀を見上げていたが、この塀は越えられないようだ。(1-4 Kくん撮影)



↑道路を渡っている様子。交通量はそれほど多くはないが、轢かれやすい心配だ。(1-4 Kくん撮影)

「先生！この前、タヌキを見ましたよ！」。10月下旬、1年生がそう話しかけてくれた。わざわざ動画まで撮影していて、その時の様子を見せてくれた。どこで見つけたのかなと思ったら、なんと科技高の正門のすぐそばだ。しかも2匹がそろって歩いていたようだ。タヌキはよく、見た目が似ているハクビシンやアライグマと混同されてしまうことがあるが、動画に写っていたのはまぎれもなくタヌキであった。江東区では数年前にも、「江東区役所の前にタヌキがいた」という情報が画像と共にインターネット上で拡散され、生徒の間でも話題に上がっていた。タヌキが都会で見られること自体はそこまで驚くことではないが、今回は学校のすぐそばである。こんなに近くにいたとは！さすがに驚いた。その後、S沼先生やT田先生からも、校門付近でタヌキを見た！という**タヌキ目撃情報が相次いで寄せられた**。

11月15日の夜7時、仕事を終えて帰ろうとすると、正門の前でモゾモゾと動く黒い物体が見えた。タヌキだ！本当にいた！しかもいたのは**校門の内側だ**。科技高内に入ってきているではないか。この日は1匹で行動していた。少しの間、後を追いつつ観察してみると、たまに振り返ってこちらの様子を伺いながら、一定の間隔をあけてのそのそと歩いていく。正門横の植え込みをくぐって自由に学校の中と外を行き来して、最終的には茂みの中に消えていった。こうも頻繁に目撃情報があり、しかもすべて正門付近であることを考えると、**校内のどこかの茂みで生活している可能性も十分に考えられる**。

タヌキの一生を調べてみると、3月頃に3～5匹の子を産み、春から夏にかけて子育てをすると記載されていた。秋は子どもが親離れする時期であり、生徒が見た2匹のタヌキはもしかしたら親子かもしれない。また、冬はオスとメスがつがいをつくる時期なので、新しいカップルの可能性もある。タヌキは雑食性で、カエルや昆虫などの小動物や果実を食べる。最近では人間の食べ残しの生ごみをあさるために都会に出てくる場合も多いようだ。タヌキには「**ため糞**」という、数頭が一か所に糞をためる習性がある。これは縄張りの主張のためと言われている。もし校内やその周辺に住みついているのであれば、**ため糞が見つかるかもしれない**。

タヌキは日本では昔話などにも登場する馴染みのある動物だが、もともと日本や中国、ロシアなどの極東にしか生息していない、**世界的には珍しい動物**なのだそうだ。(近年はヨーロッパなどにも移入している。)また、「**狸寝入り**」という言葉があるが、実際タヌキは**擬死をする**ようで、危険を感じると死んだふりでその場をやりきるという習性がある。体型的にはずんぐりした丸みのある体で脚も短い。(それが可愛いのだが)こういう形態をしているので、狩りをしたり走って逃げたりするのが得意ではないようだが、その代わりに死んだふりという習性で生き延びてきたのだろう。

冬ごもりもせず真冬でも活動しているそうなので、今後も学校付近で目撃されることがあるかもしれない。**タヌキを見かけたときは、是非教えてください。**